



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社

ラクオリア創薬株式会社

(東証 グロース : 4579)

2023年7月22日

ラジオNIKKEI & プロネクサス共催 企業IR&個人投資家応援イベント

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品（研究開発プログラムおよび化合物）に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。



1. 会社概要
2. ビジネスモデル
3. 前期（2022年12月期）業績
4. 上市製品の状況
5. 開発品目の状況
6. 成長戦略
7. 中期事業計画（2023年12月期～2025年12月期）



当社は新薬開発で優れたパイプラインと 成長可能性を持つ創薬ベンチャー

カテゴリー	ポイント	ランキング※
製品	販売中の自社品 4剤	自社品数 1 位
開発品	導出済み自社品プログラム 12品	自社品数 2 位
業績	営業利益(2022年12月期) 8.6億円	営業利益 3 位

※2023年6月30日現在、上場バイオベンチャー33社中

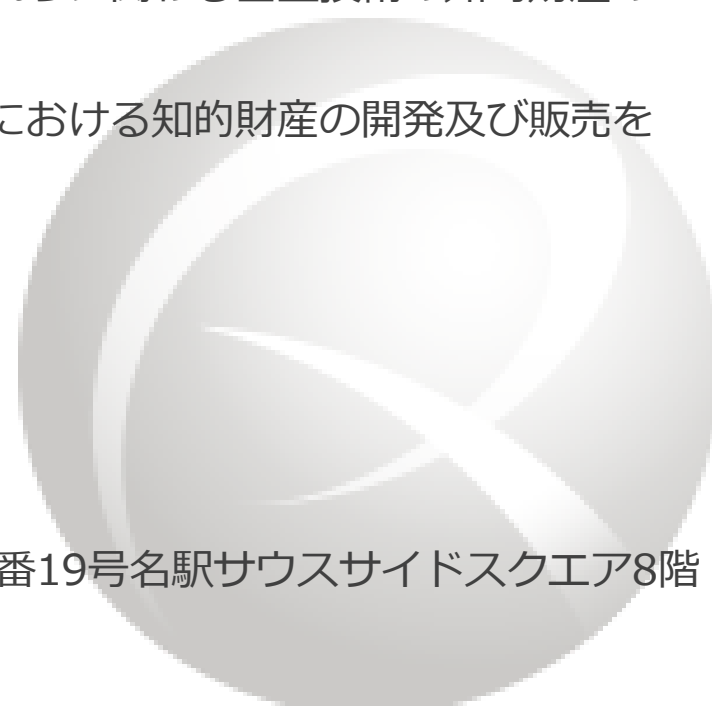


RaQualia
innovators for life

① 会社概要



社名	ラクオリア創薬株式会社
代表取締役	武内 博文
事業内容	医薬品の研究開発 医薬品、臨床開発候補品及びこれらに関わる基盤技術の知的財産の 販売及び使用許諾 企業及び大学との生物医学分野における知的財産の開発及び販売を 目的とした提携
従業員数 (連結)	68名
設立	2008年2月19日
資本金	26億6,476万円
本社所在地	名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号名駅サウスサイドスクエア8階
子会社	テムリック株式会社

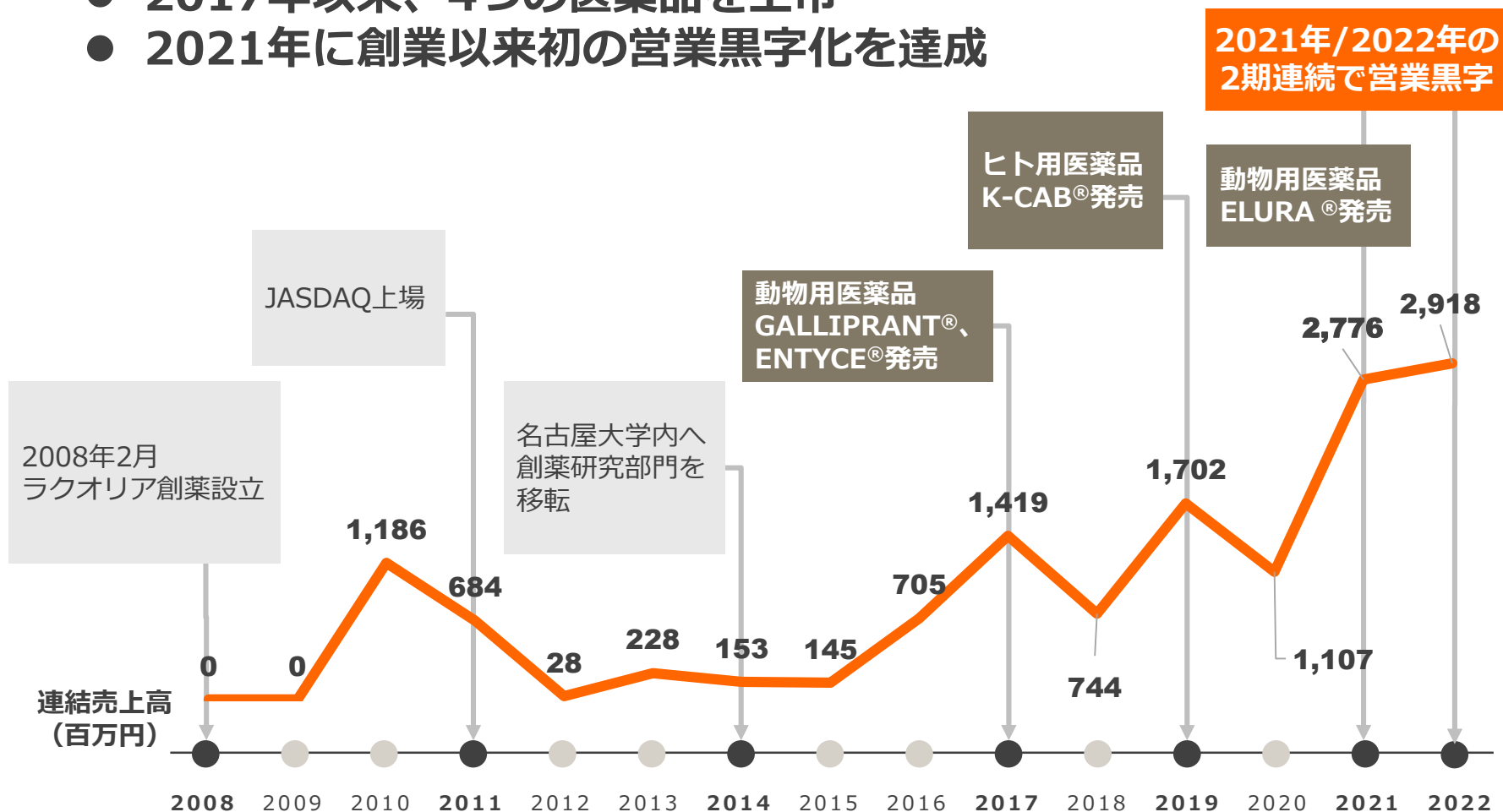




ラクオリア創薬の成長の軌跡

RaQualia
innovators for life

- 2008年2月設立
- 2017年以來、4つの医薬品を上市
- 2021年に創業以來初の営業黒字化を達成

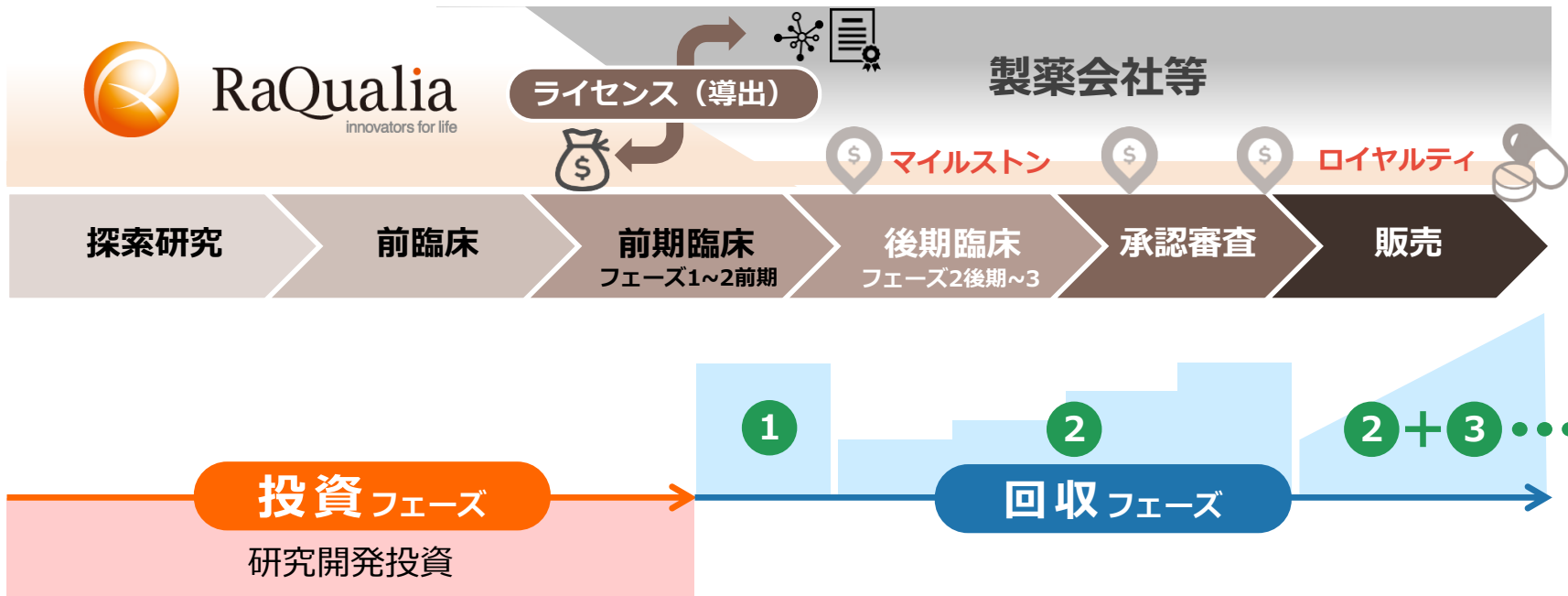




RaQualia
innovators for life

② ビジネスモデル

市場環境・成長戦略



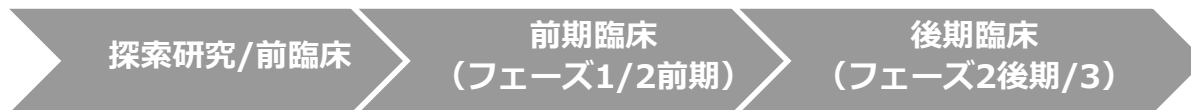
4つの主な収入源

- ① **契約一時金** 製薬会社等とのライセンス契約締結時に得られる収入
- ② **マイルストーン** 開発の進展、あるいは製品発売後に一定の売上高に達した際に得られる収入
- ③ **ロイヤルティ** 製品発売後、売上高の一定割合を得られる収入
- ④ **研究協力金** 契約相手先から研究を請け負った際に得られる収入

※特定の研究開発ステージによらず発生するものであるため上図には示しておりません



低分子医薬品の研究開発に携わるパイプライン型創薬ベンチャー



プラットフォーム型



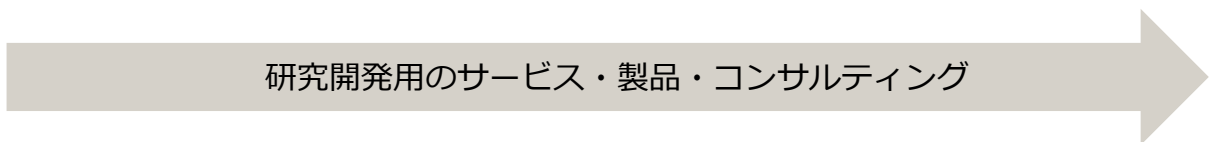
創薬シーズを創出する技術（プラットフォーム）を製薬企業等に提供する

✓ **パイプライン型**



付加価値の高い新薬候補物質（パイプライン）を生み出して製薬企業等に提供する

創薬支援型



製薬企業等のニーズに合わせたサービス・製品等を提供する



モダリティ

ビジネスモデル

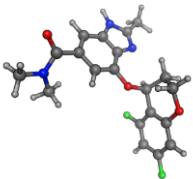
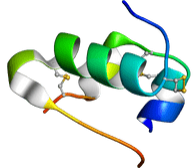
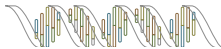

	低分子	タンパク質 ペプチド	遺伝子治療 核酸医薬 ゲノム編集	抗体	再生 細胞医療
プラットフォーム型	・ソーせいグループ	・ペプチドリーム	・モダリス		
パイプライン型 (導入開発型を含む)	ラクオリア創薬 ・カルナバイオサイエンス ・メディシノバ ・DWTI ・窪田製薬 ・Delta-Fly Pharma ・GNIグループ ・シンバイオ製薬 ・ソレイジア・ファーマ ・レナサイエンス ・ティムス	・JCRファーマ ・オンコセラピー・サイエンス ・3Dマトリックス ・ブライトパスバイオ ・ステムリム ・ファンペップ ・クリングルファーマ ・キャンバス	・アンジェス ・リボミック ・オンコリス	・カイオム・バイオサイエンス ・ペルセウスプロテオミクス ・キッズウェル・バイオ	・サンバイオ ・ヘリオス ・J-TEC ・セルシード ・ノイルイミューション ・クオリプス
創薬支援 解析・加工受託		・免疫生物研究所		・トランスジェニック	・タカラバイオ ・メディネット ・リプロセル ・セルソース ・サイフューズ

※青字：前期業績において黒字の企業（当社を除く）

出所：みずほ証券株式会社「医薬・バイオマンスリー（2023年7月号）」を引用・一部改変



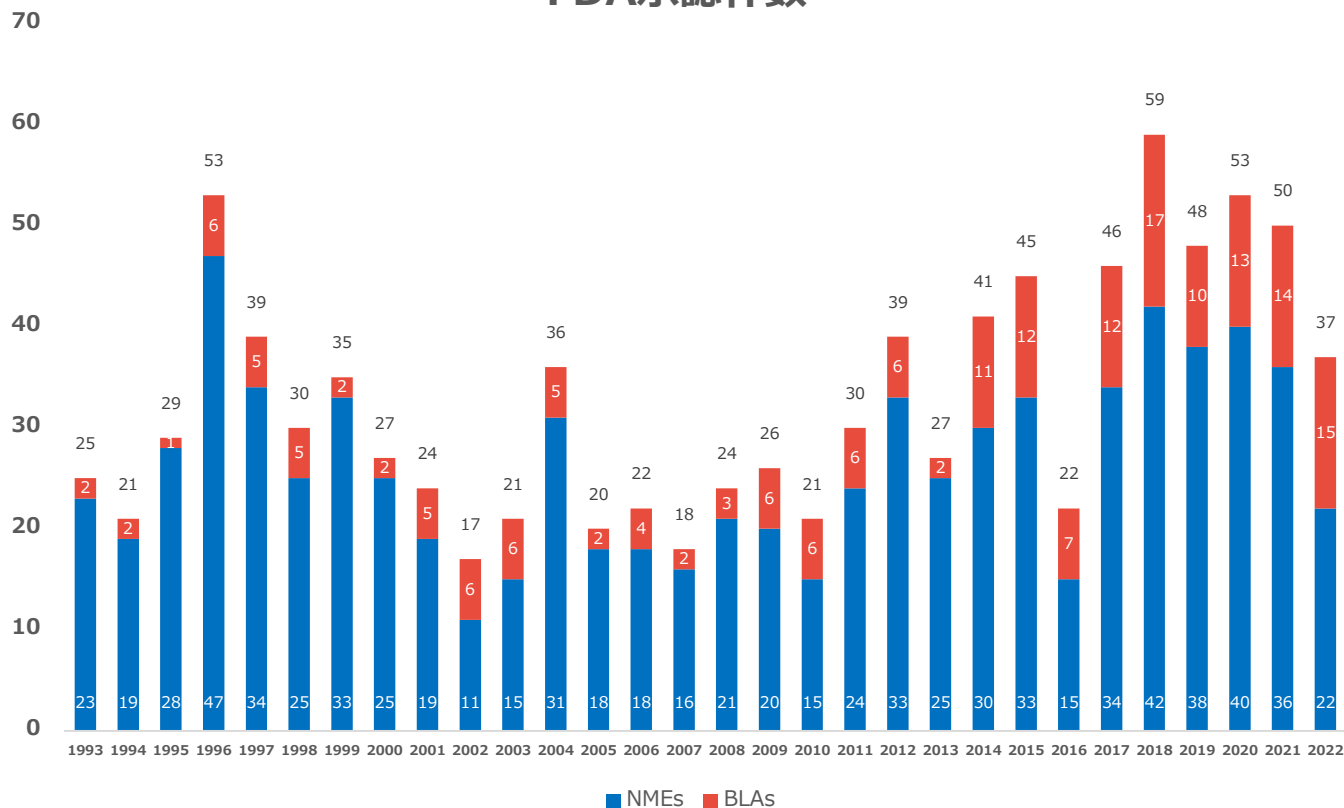
低分子医薬品ほど「オールラウンダー」な医薬品はない

医薬品の種類	低分子医薬品	中分子医薬品・バイオ医薬品		
		ペプチド	核酸	抗体
イメージ				
製造コスト	低	中	中～高	高
標準薬価	低	中	高	高
創薬標的	タンパク質	○		○
	核酸	○	○	○
投与経路	経口	○		
	その他	○	○	○



承認件数は**バイオ医薬品**より**低分子医薬品**の方が多い

FDA承認件数



2022年の
FDA承認薬の内
低分子の割合

59%

NMEs: New Molecular Entity (新規有効成分含有医薬品=低分子)
BLAs: Biologic License Application (生物学的製剤=バイオ医薬品)



RaQualia
innovators for life

③ 前期業績

2022年12月期（2022年1月1日～2022年12月31日）



連結経営成績概要

IRセミナー

RaQualia
innovators for life

	2021年12月期 (前々期)	2022年12月期 (前期)
事業収益	2,776 百万円	2,918 百万円
営業利益	707 百万円	866 百万円
経常利益	863 百万円	904 百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	755 百万円	723 百万円
EBITDA ¹⁾	849 百万円	1,013 百万円
1株当たり当期純利益 (EPS)	36.07 円.銭	34.50 円.銭
自己資本当期純利益率 (ROE)	17.2%	14.1%
総資産経常利益率 (ROA)	18.2%	15.7%
売上高営業利益率 (ROS)	25.5%	29.7%

1) EBITDA: 利払・税引・減価償却前利益。国ごとに異なる税率・金利の影響を減らし、中長期的視点で企業の収益力を表す指標として用いられます。

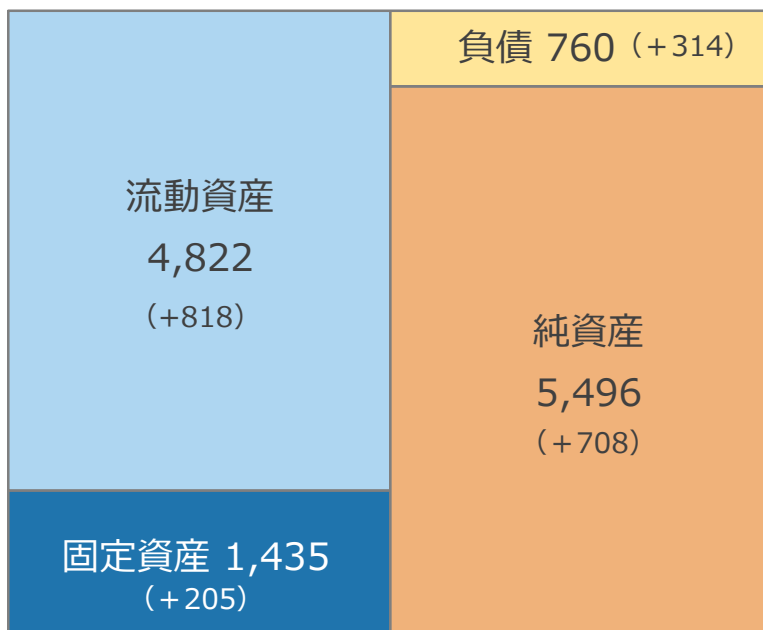


自己資本比率87.7%（前期末比3.6ポイント減）

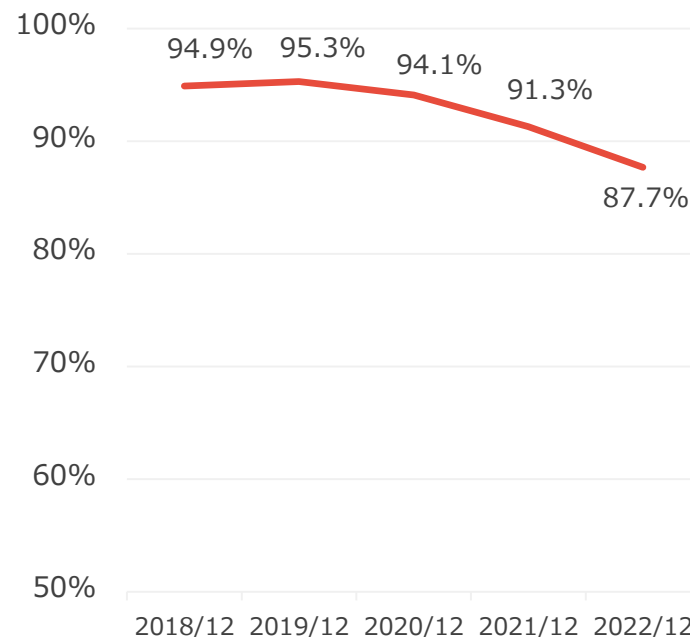
- 資産：現預金の増加、売掛金・契約資産の減少などにより、前期末比1,023百万円増（19.6%増）
- 負債：リース債務および未払金の増加などにより、前期末比314百万円増（70.5%増）
- 純資産：純利益の計上などにより、前期末比708百万円増（14.8%増）

連結貸借対照表（対前期末比較）

単位：百万円



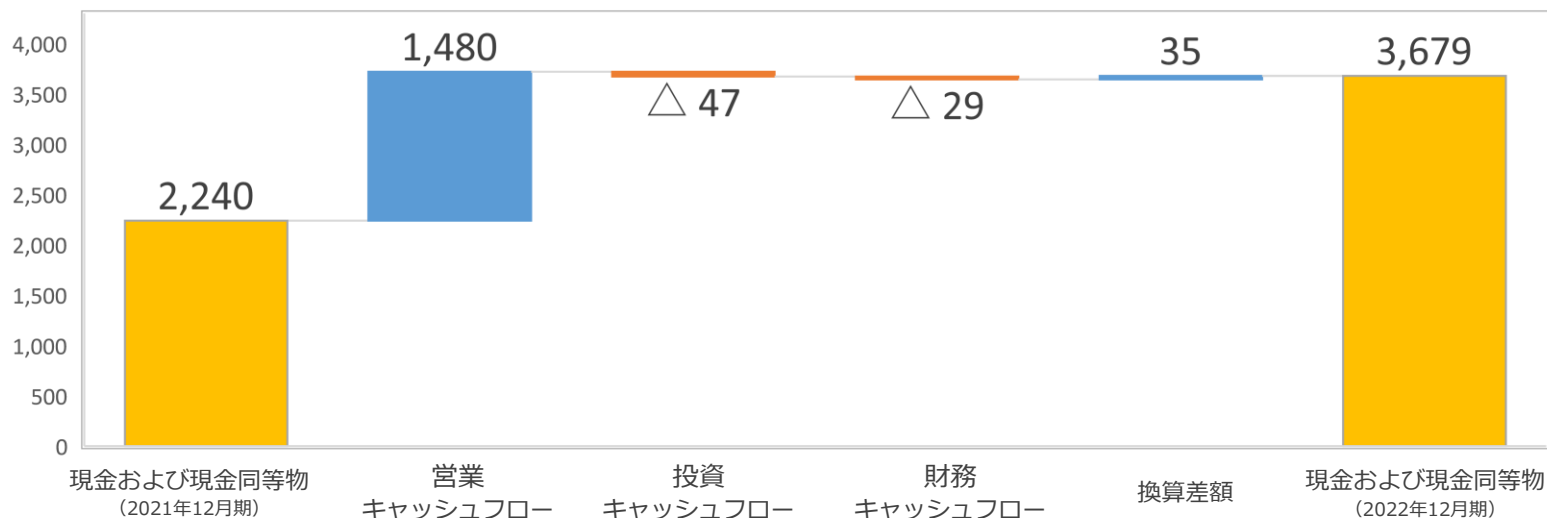
自己資本比率





現金および現金同等物は前期末比1,438百万円増加（64.2%増）

単位：百万円



営業

キャッシュフロー

主な増加要因：税金等調整前四半期純利益851百万円、減価償却費147百万円
売上債権の減少603百万円

主な減少要因：法人税等の支払額183百万円

投資

キャッシュフロー

主な増加要因：投資有価証券の売却および償還による収入525百万円

主な減少要因：投資有価証券の取得による支出651百万円

財務

キャッシュフロー

主な増加要因：長期借入れによる収入13百万円

主な減少要因：リース債務の返済による支出45百万円



RaQualia
innovators for life

④ 上市製品の状況

テゴプラザン・ペット用医薬品



種別	作用機序	一般名・製品名	適応症
 ヒト用	カリウムイオン 競合型アシッド ブロッカー (P-CAB)	テゴプラザン ・ K-CAB®(韓国) ・ 泰欣赞®(中国) (ほか) <small>タイシンザン</small>	・ 胃食道逆流症、 胃潰瘍、 十二指腸潰瘍ほか
	EP4拮抗薬	グラピプラント ・ GALLIPRANT®	・ 犬の骨関節炎
 ペット用	グレリン受容体 作動薬	カプロモレリン ・ ENTYCE®	・ 犬の食欲不振
		カプロモレリン ・ ELURA®	・ 慢性腎疾患の猫の体重 減少管理 ・ 猫の食欲不振



カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（P-CAB）



一般名	tegoprazan（テゴプラザン）
適応症	胃食道逆流症、消化性潰瘍ほか
販売元	HK inno.N Corporation（韓国）（HKイノエン社） Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co.,Ltd. （中国）（Luoxin社）ほか
製品名	K-CAB®（韓国・フィリピン）、泰欣赞®（中国）ほか



胃酸の過剰分泌による疾患は数多い

びらん性胃食道逆流症（GERD）、胃潰瘍など



世界の消化性潰瘍剤の市場は2兆円

中国 4,100億円、米国 3,700億円、日本 2,500億円



既存薬（プロトンポンプ阻害剤（PPI））の課題を克服

速やかな効果、効果の持続性、強力な胃酸分泌抑制能、低い薬物相互作用



日本を除く地域の権利をHKイノエン社に許諾

当社は開発の進捗に応じたマイルストーン/製品売上に応じたロイヤルティを受け取る



韓国・中国など6カ国※1で販売中

このほか30か国に進出

※1：韓国、中国、フィリピン、モンゴル、メキシコおよびインドネシア



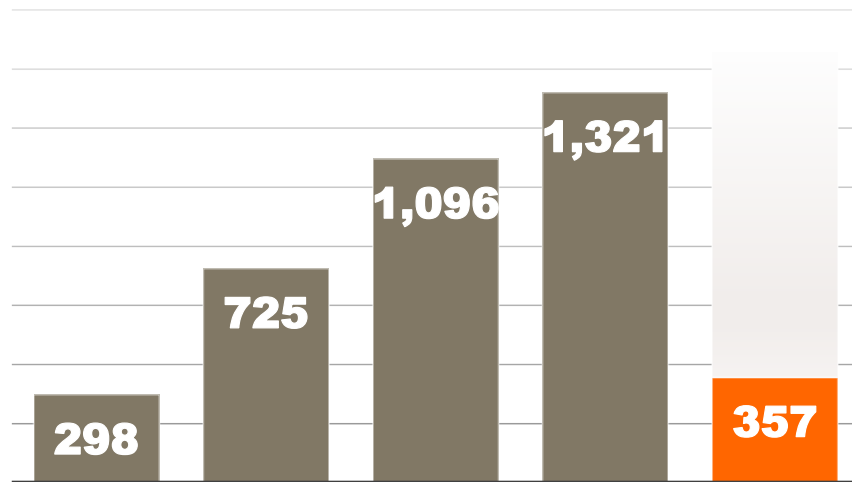
(韓国)

口腔内崩壊錠の伸長などにより二桁成長を維持

- 2023年第1四半期の韓国国内売上高※1 357億ウォン（約35億円）
- 口腔内崩壊錠（OD錠）が順調にシェアを拡大
- 2023年1月には新たに低用量製剤（25 mg錠）を発売

「K-CAB®」の韓国売上高の推移

(単位：億ウォン)



1. 前年同期比 **+15.2%**

2. 市場シェア **第1位** (シェア12%)

3. OD錠売上割合 **14%**

2019 2020 2021 2022 2023

※1：処方実績（暫定値）
換算レート：1韓国ウォン=0.10円



テゴプラザンのグローバル展開の状況

IRセミナー

RaQualia
innovators for life

36か国に進出。今後2年間で販売地域がさらに増加する見通し

表. 主要な国・地域における販売・開発状況および消化性潰瘍治療薬の市場規模

(2023年7月20日現在)

国・地域	導出先 ¹⁾	販売・開発状況	市場規模 ²⁾
 韓国	HKイノエン社	販売続伸中 	1,000億円
 中国	Luoxin社	2022年発売 	4,100億円
 フィリピン	MPPI社	2022年発売 	80億円
 モンゴル	Monos社	2022年発売 	—
 メキシコ	Carnot社	2023年発売  	570億円 ³⁾
 インドネシア	Kalbe社	2023年発売  	200億円
 シンガポール	UITC社	発売準備中 	16億円
 タイ、ベトナム、マレーシア	Pond's社、Lyhn farma社、Pharmaniaga社	承認審査中	270億円
 アルゼンチン など中南米16カ国	Carnot社	承認審査中	570億円 ³⁾
 インドなど7か国	Dr. Reddy社	申請・開発準備中	1,300億円
 ブラジル	Eurofarma社	申請準備中	800億円
 米国	Braintree社	後期臨床試験中	3,700億円

1) HKイノエン社からのサブライセンス先を含む；2) 2021年末時点（出所：HKイノエン社IR資料（2023年4月））
3) メキシコとアルゼンチンなど中南米16カ国の市場規模の合計値

※換算レート：1韓国ウォン=0.10円



EP4拮抗薬 **GALLIPRANT®**



一般名	grapiprant (グラピプラント)
適応症	犬の骨関節炎
販売元	Elanco Animal Health, Inc. (米国) (エランコ社)

- 日米欧ほかで販売中
- エランコ社史上10個目のブロックバスターに成長¹⁾

グレリン受容体作動薬 **ENTYCE® / ELURA®**



一般名	capromorelin (カプロモレリン)
適応症	犬の食欲不振 (ENTYCE®) 慢性腎疾患の猫の体重減少管理、猫の食欲不振 (ELURA®)
販売元	エランコ社

- ENTYCE® : 米国で販売中。売上は堅調に推移
- ELURA® : 米国で販売中。欧州で承認審査中

1) エランコ社 2021年度決算発表 (2022年2月24日)



ヒト用医薬品との最大の違いは**薬価制度が存在しないこと**

- 🐾 薬価改定や後発品の影響が小さい
- 🐾 飼い主の評価が高い製品は売上が安定する傾向

ペット用医薬品

ヒト用医薬品

薬価



- 公定薬価制度が無い
- メーカー側に**価格決定力**

- 薬価制度・保険制度の影響大
- 政府・保険会社側に**価格決定力**

後発医薬品



- 少数の企業がやや低い価格で参入
- 行政による**後発品使用促進がない**

- 多数の企業が低価格で参入
- 行政が**後発品使用を促進**

消費者動向



- 飼い主は**ブランドを重視し、同じ製品を使い続ける**傾向

- 先発品にこだわらず**低価格の後発品を選ぶ**傾向



RaQualia
innovators for life

⑤ 開発品目の状況

開発パイプライン



(2023年7月1日現在)

導出済み

EP4拮抗薬
変形性関節症ほか
AskAt社

CB2作動薬
IBSに伴う疼痛
AskAt社

TRPM8遮断薬
慢性疼痛
Xgene Pharmaceutical社

ナトリウムチャンネル遮断薬
慢性疼痛
久光製薬社

COX2阻害薬
疼痛（動物薬）
AskAt社

5-HT₄作動薬
胃腸運動障害（動物薬）
Vetbiolix社

開発段階非開示

特定のイオンチャンネル
消化器領域
EAファーマ社

選択的ナトリウムチャンネル遮断薬
鎮痛・鎮痒
マルホ社

EP4拮抗薬
疼痛
AskAt社

COX2阻害薬
疼痛
AskAt社

タミバロテン
急性骨髄性白血病
Syros Pharmaceuticals社

P2X7受容体拮抗薬
慢性疼痛
旭化成ファーマ社/リリー社

タミバロテン
骨髄異形成症候群
Syros Pharmaceuticals社

テゴプラザン (K-CAB®)
胃食道逆流症ほか
HKイノエン社

EP4拮抗薬 (GALLIPRANT®)
イヌの骨関節炎
エランコ社

グレリン受容体作動薬 (ENTYCE®)
イヌの食欲不振
エランコ社

グレリン受容体作動薬 (ELURA®)
ネコの慢性腎臓病の体重減少管理
エランコ社

前臨床

フェーズ1
(第I相/P1)

フェーズ2
(第II相/P2)

フェーズ3
(第III相/P3)

販売中

導出準備

モチリン受容体作動薬
胃不全麻痺ほか

グレリン受容体作動薬
悪液質に伴う食欲不振、
脊髄損傷に伴う便秘

TRPM8遮断薬 (日本)
慢性疼痛

テゴプラザン (日本)
胃食道逆流症ほか

5-HT₄作動薬
胃不全麻痺ほか

5-HT_{2B}拮抗薬
下痢型IBS

注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。

注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.co.jp/>) の「開発情報」にてご確認ください。



主な標的疾患の潜在市場規模

RaQualia
innovators for life

疾患名	当社開発パイプライン	患者数	市場規模 (地域)	既存薬
胃食道逆流症 ^{1,2)}	テゴプラザン	5,800万人 (米国) 1,700万人 (日本)	2兆円 (全世界) 3,700億円 (米国) 2,500億円 (日本)	H2RA、PPI、 プロプラザン
疼痛 ^{3,4)}	EP4拮抗薬、 COX2阻害薬、 TRPM8遮断薬、 P2X7受容体拮抗薬、 ナトリウムチャネル 遮断薬	5,000万人 (米国) 2,300万人 (日本)	2兆円 (全世界) 3,000億円 (日本)	プレガバリン、 デュロキセチン、 セレコキシブ 他
がん免疫 ^{5,6)}	EP4拮抗薬	がん患者の約12%が がん免疫療法に応答	10兆円 (全世界)	ニボルマブ、 ペムブロリズマブ 他
骨髄異形成症候群 ⁷⁾	タミバロテン	6-17万人 (米国)	1,000億円 (全世界)	アザシチジン 他
急性骨髄性白血病 ^{8,9)}	タミバロテン	16万人 (全世界) 7,000人 (日本)	1,000億円 (全世界)	アザシチジン、 ベネトクラクス 他

以下の資料に基づき当社で推計：1) HKイノエン社資料；2) Sci. Rep. 10:5814 (2020)；3) 日経バイオ年鑑2021 (2020)；4) 日経バイオ年鑑2022 (2021)；5) Cancer Immunotherapy Market: Global Industry Trends, Share, Size, Growth, Opportunity and Forecast 2022-2027 (2022)；6) JAMA Network Open. 2(5):e192535 (2019)；7) MDS Foundation (<https://www.mds-foundation.org/what-is-mds/>)；8) Acute Myeloid Leukemia Market - Growth, Trends, COVID-19 Impact, and Forecasts (2022 - 2027) (2022)；9) アツヴィ合同会社プレスリリース (2020/6/24)

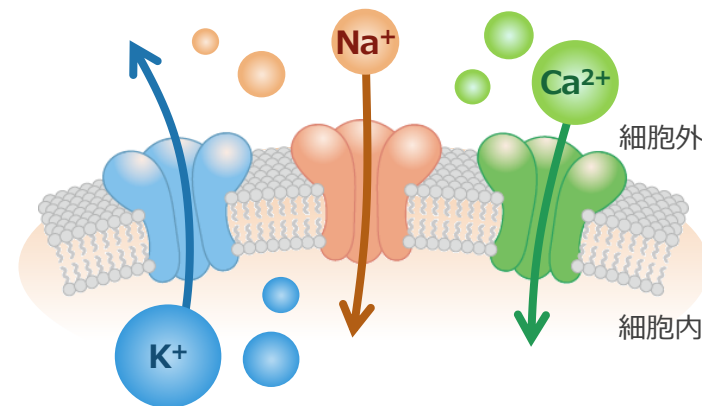


イオンチャネルの制御により幅広い疾患を治療できる可能性 創薬の難易度が高く、参入する企業の少ない創薬領域



イオンチャネルとは

- 細胞の内外へイオンを通過させる
- 細胞機能の維持に必須
- 種類によって通過できるイオンが決まっており、精密に制御されている



さまざまな生理現象にイオンチャネルが深く関与

神経のシグナル伝達	----->	認知・記憶・五感	----->	精神・神経疾患
心筋の収縮	----->	不整脈等	----->	循環器疾患
骨格筋の収縮	----->	四肢麻痺、筋委縮等	----->	筋疾患
ホルモンの分泌	----->	血糖、利尿作用等	----->	代謝性疾患・泌尿器疾患等



5つの開発化合物※を創成し、その全てでライセンス契約を締結 2022年11月にはP2X7受容体作動薬が開始

プログラム名	導出先企業 (サブライセンス先)	想定適応症	開発段階
P2X7受容体拮抗薬	旭化成ファーマ株式会社 (Eli Lilly & Company)	慢性疼痛	フェーズ2実施中
選択的ナトリウム チャンネル遮断薬	マルホ株式会社	鎮痛・鎮痒	契約上非開示
特定のイオンチャンネル	EAファーマ株式会社	特定の消化器疾患	契約上非開示
TRPM8遮断薬	Xgene Pharmaceuticals	慢性疼痛	前臨床実施中
ナトリウムチャンネル 遮断薬	久光製薬株式会社	慢性疼痛 (経皮吸収型薬剤)	前臨床準備中

※ 開発化合物：前臨床試験以降の段階に進める新薬候補物質として選定された化合物



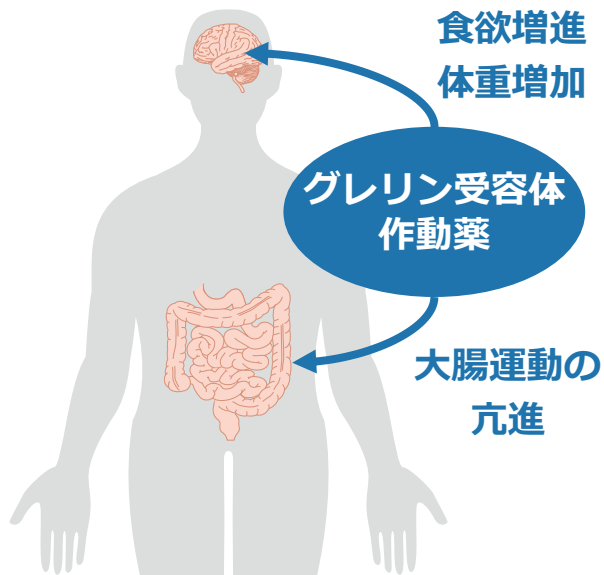
想定適応症：がん悪液質および脊髄損傷に伴う便秘

● がん悪液質

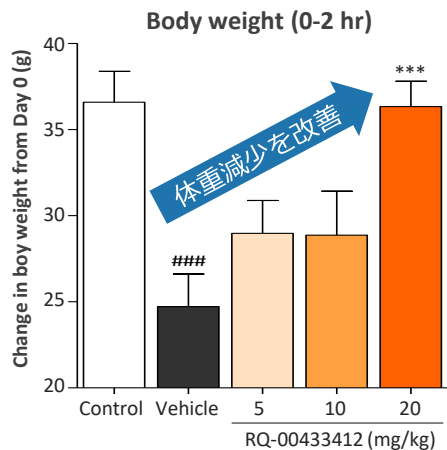
がん患者の20%以上、進行がん患者の初診時に約50%、終末期の80%に認められるグレリン受容体作動薬は食欲増進と成長ホルモン放出により筋肉量および体重を増加させる

● 脊髄損傷に伴う便秘

脊髄損傷者は全世界で30万人以上。多くは排便障害を患うグレリン受容体作動薬は大腸運動を促進し自律的な排便を促す

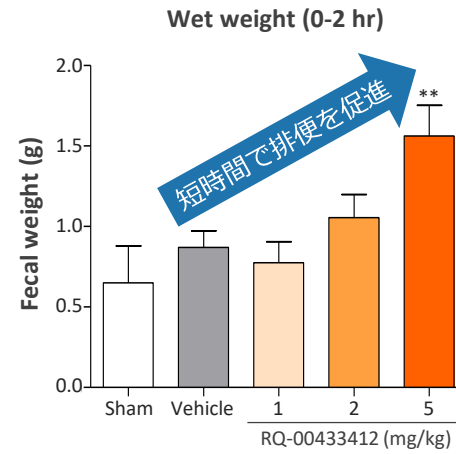


担癌ラット悪液質モデルにおけるRQ-00433412の効果



P<0.001 vs. Control, *** P<0.001 vs. Vehicle

脊髄損傷ラットにおけるRQ-00433412の効果



SCI

** P<0.005 vs. Vehicle

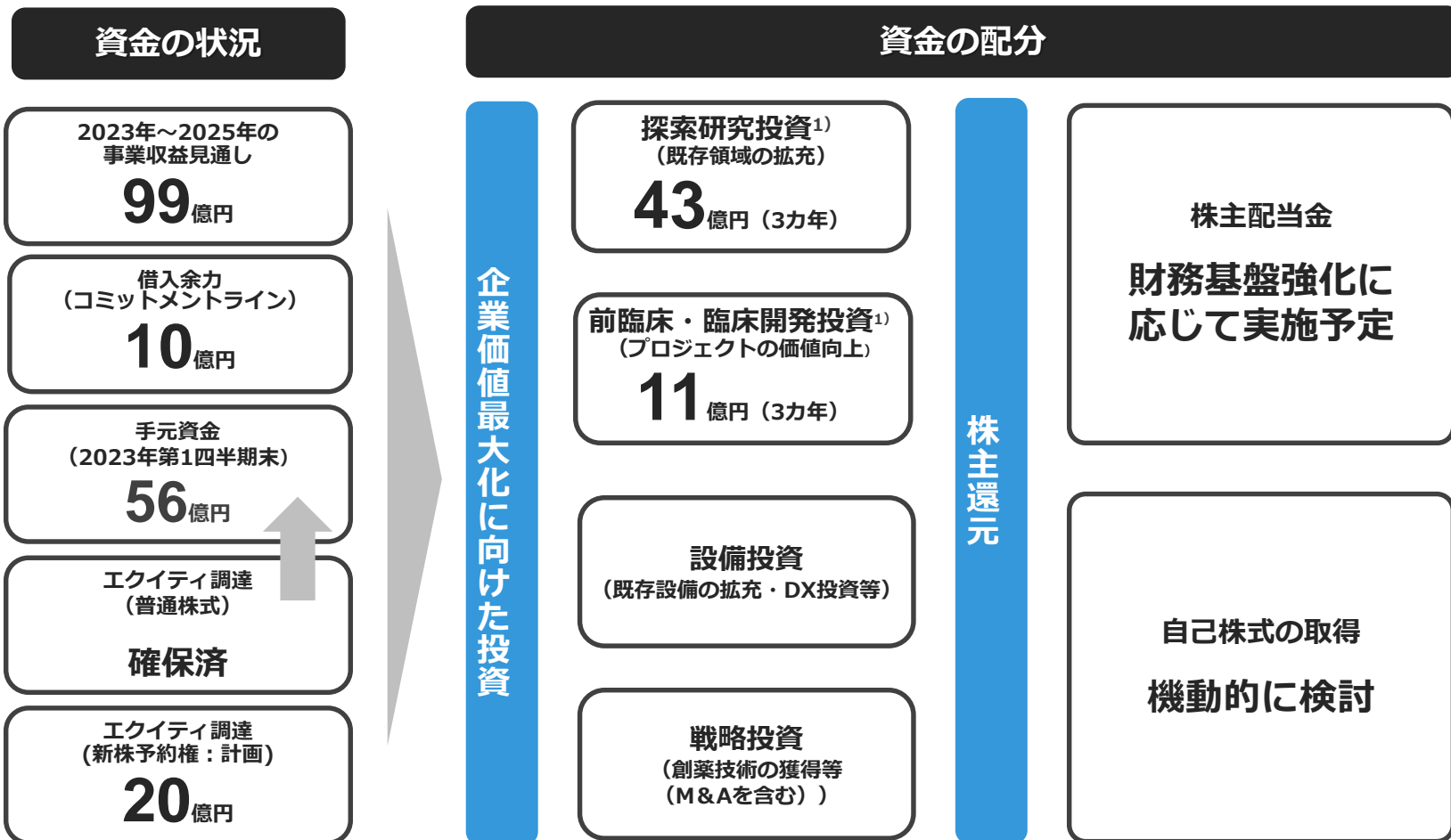


RaQualia
innovators for life

⑥ 成長戦略



企業価値最大化を最優先し長期的に株主還元を実現する



1) 2023年～2025年の3カ年の計画であり人件費を含む額となっております。

パイプラインの拡充と大型導出を実現する

(2023年7月1日現在)



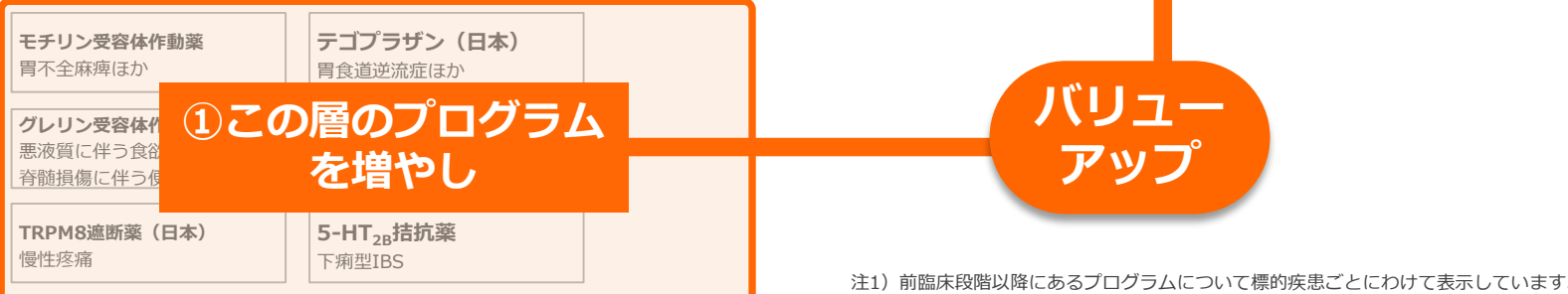
導出済み



②大型導出を目指す

①この層のプログラムを増やし

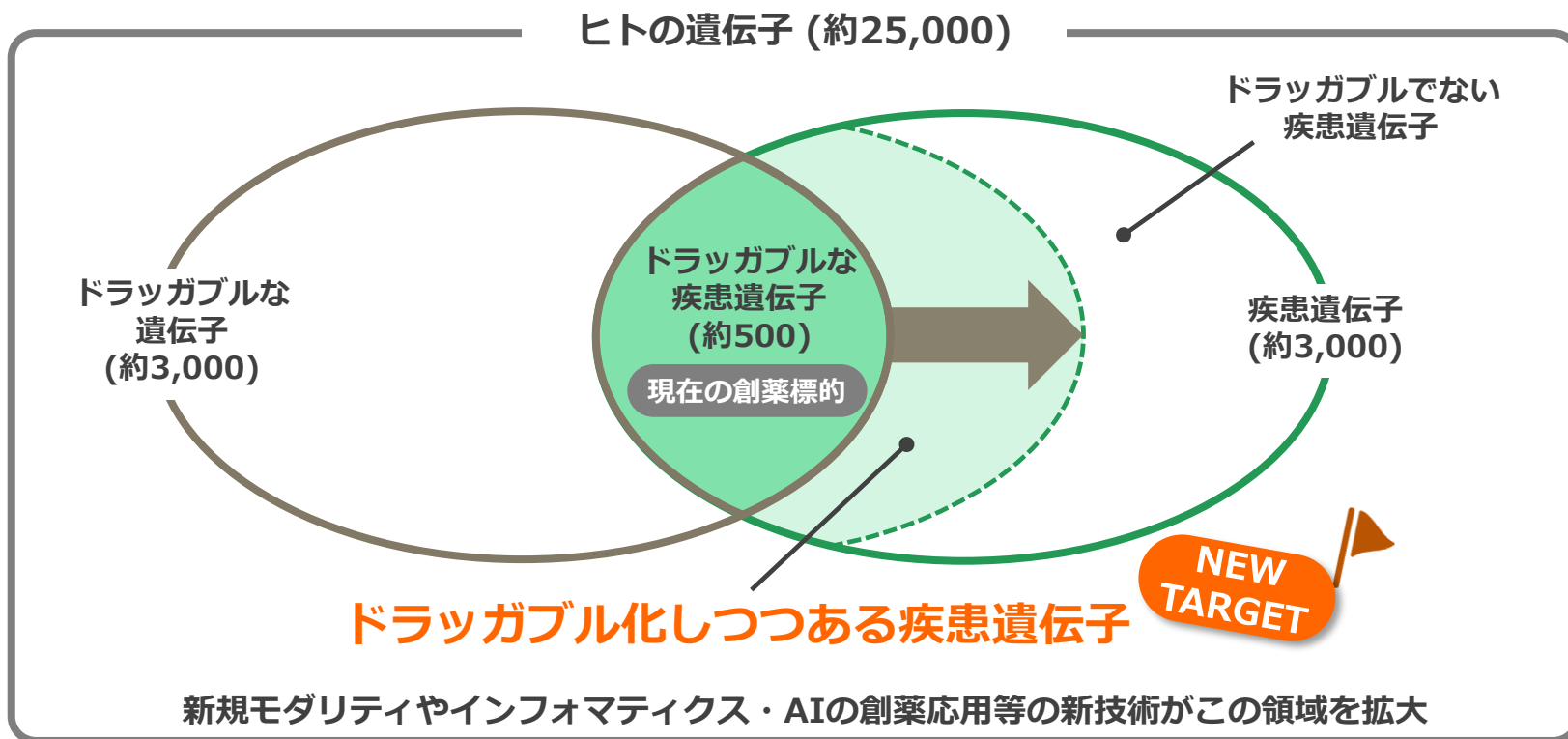
バリューアップ



注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。
注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。
詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.co.jp/>) の「開発情報」にてご確認ください。

未開拓の創薬標的に挑み非連続の成長に繋げる

創薬バリューチェーンのアップデートにより “ドラッグブル化しつつある疾患遺伝子”を標的とした創薬を実現



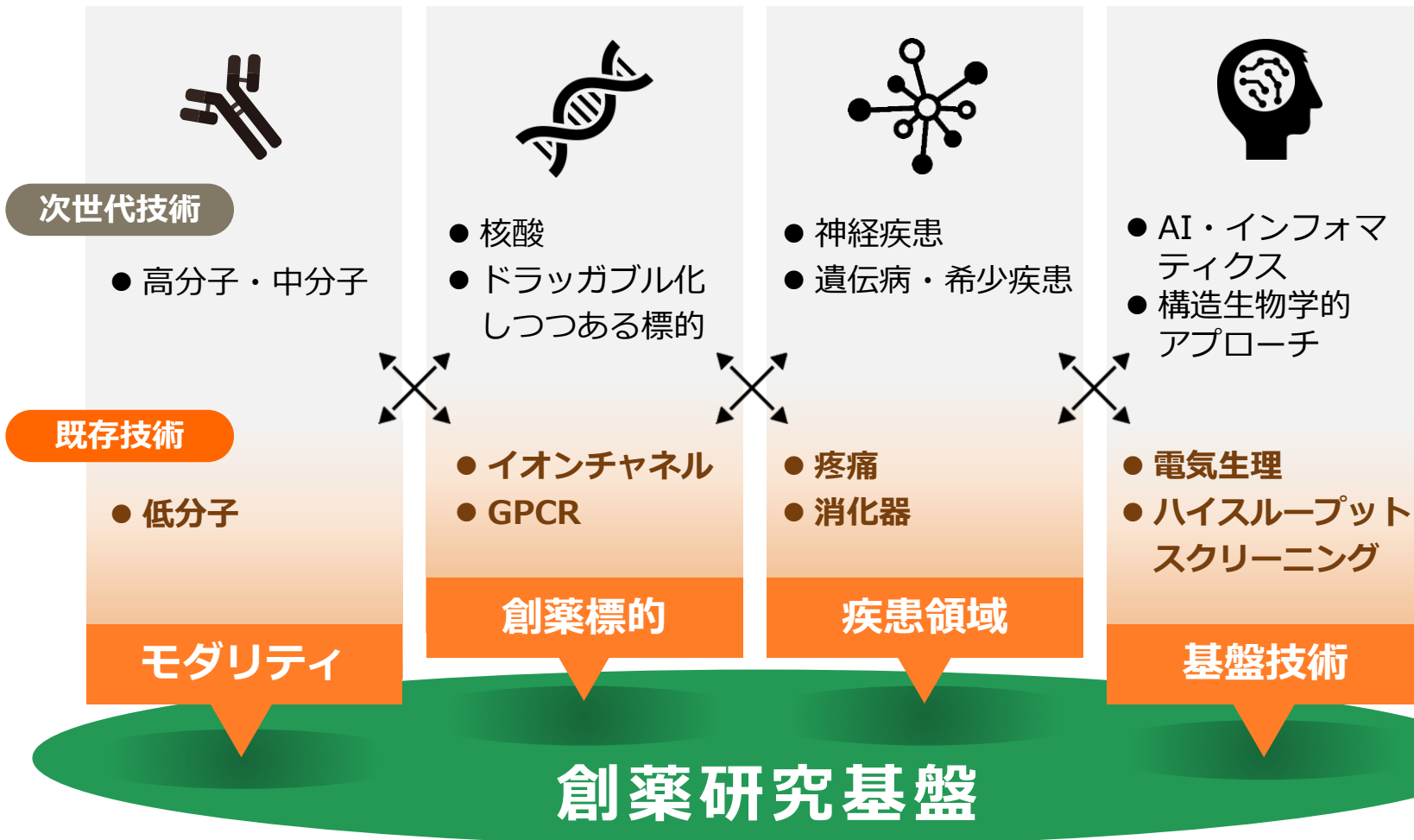
Int. J. Biochem. Cell Biol., 39, 1156 (2007) に基づき当社作図

ドラッグブルとは、化合物・抗体等の物質により受容体等の標的の分子の機能を調節できる可能性が高いことを意味し、ドラッグブルかそうでないかによって新薬候補を生み出せるかどうかが大きく左右されます。

創薬研究基盤強化により次世代型創薬ベンチャーへ



既存技術と新規取組みのシナジーで 次世代の自社創薬バリューチェーンを確立



スタートアップ・創薬ベンチャーとの連携強化



SOCIUM

AIの活用により難病・希少疾患への適応を探索



ソシウム株式会社：独自の難病・希少疾患データベースとAI創薬プラットフォーム

STAND
THERAPEUTICS

新規モダリティ（細胞内抗体）



STAND Therapeutics株式会社：独自技術（STAND技術）で細胞内から標的分子にアプローチ



mRNA標的の低分子化合物から新たな抗がん剤を創出



株式会社Veritas In Silico：mRNA上で標的部分構造を見出すインフォマティクス技術



DWTI

当社化合物（イオンチャネル標的）の眼疾患への適応を探索



株式会社デ・ウイスタン・セピテクス研究所：眼科領域の創薬ノウハウ（緑内障治療薬（製品名：グラナテック®））



イオンチャネルの3次元立体構造解析



leadXpro AG：クライオ電子顕微鏡などを用いた膜タンパクの構造解析技術



湘南アイパークに研究開発拠点を新設

最先端の科学と技術を保有する企業との協議機会を獲得 創薬バリューチェーンとポートフォリオの充実化を図る

新規モダリティ、標的分子探索、AIの創薬応用等

湘南ヘルスイノベーションパーク
(湘南アイパーク)

神奈川県藤沢市。約150社、2,000人以上の
企業が集積するサイエンスパーク

湘南ヘルスイノベーションパーク
Shonan Health Innovation Park

iPark
Shonan



RaQualia
innovators for life

⑦ 中期事業計画

2023年12月期～2025年12月期



1

ロイヤルティ 収入の増加

- テゴプラザンのグローバル成長が業績をけん引
- ペット用医薬品も堅調に推移

2

テゴプラザン 日本

- 従来の自社開発後に導出するという計画を変更
- 製薬企業と現段階で提携し、後期臨床試験の開始を早め、**最速の製品上市を目指す**

3

グレリン受容体 作動薬

- 自社で第 I 相臨床試験（フェーズ1試験）を実施
- プログラムの価値を高め、**将来受け取る収益を増やす**

4

成長投資

- 当社の将来の成長性確保には**研究開発の加速化**が必須
- **3期連続の黒字を維持**しつつ、資金調達で得た資金をあわせ**創薬研究機能の強化とパイプライン増強**への投資を拡大する



業績予想および今後の業績目標

RaQualia
innovators for life

安定的な事業収益により**3期連続の営業黒字**を確保

設備投資や開発費の増加により**事業費用は増加**するが、2025年以降の中長期的な成長の基盤として重要な投資と位置づけ

単位：百万円

	実績	計画	目標	
	2022年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期	2025年 12月期
事業収益	2,918	2,799	2,966	4,185
事業費用	2,051	2,538	2,657	2,860
営業利益	866	260	309	1,325
経常利益	904	242	317	1,330
親会社株主に 帰属する 当期純利益	723	183	248	1,166
EBITDA	1,013	464	584	1,582
為替 (米ドル/日本円)	134.25	125	125	125

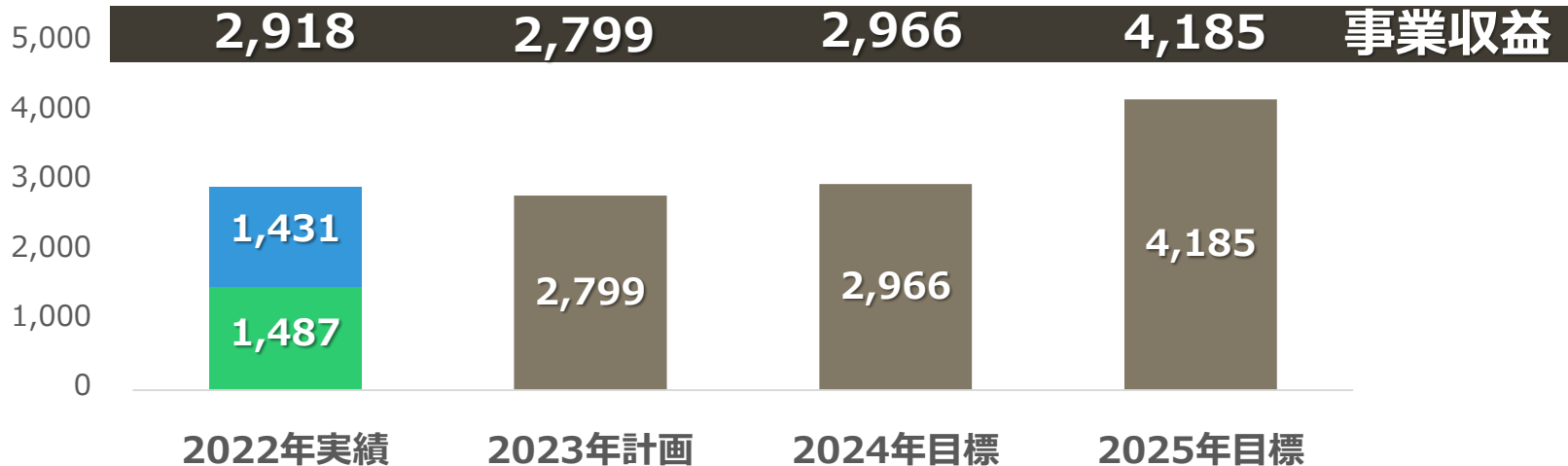


事業収益計画および研究開発費

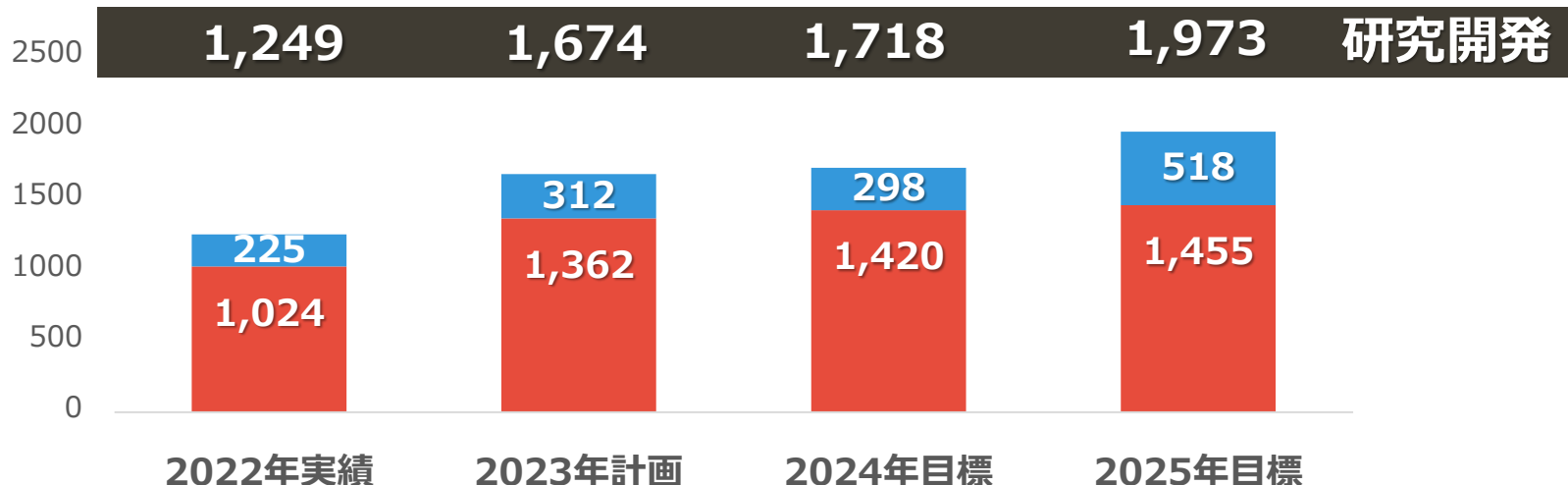
RaQualia
innovators for life

単位：百万円

■ ロイヤルティ ■ その他（契約一時金・マイルストーン等）



■ 研究 ■ 開発



今回の発表では、ロイヤルティ収入とその他収入（契約一時金・マイルストーン）の別を設けずまとめて表示しています。契約一時金の想定額に関する情報の開示が契約交渉に影響する可能性を鑑みての措置でございますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



当社は新薬開発で優れたパイプラインと 成長可能性を持つ創薬ベンチャー

カテゴリー	ポイント	ランキング※
製品	販売中の自社品 4剤	自社品数 1 位
開発品	導出済み自社品プログラム 12品	自社品数 2 位
業績	営業利益(2022年12月期) 8.6億円	営業利益 3 位

※2023年6月30日現在、上場バイオベンチャー33社中

私たちは創薬を通じて健康と幸せに貢献し、
人々の心に陽をもたらします



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社